

2

地観(地観)の自生的近代性比較

Comparison of Autogenous Modernity in Views of Earth

研究目的および概要

本研究は東学思想と大巡思想の地観(地観、地に対する観点)を比較分析することにより韓国的自生近代性の特徴を糾明することを目的とする。

主要研究の問い:

- それぞれの思想において地はどのように
- 解釈されるか?自生的近代性にどのような意味を持つか?

核心概念定義

地觀(地觀)

地に対する哲学的・宗教的観点で、天地(天地)構造において地が持つ位相と役割に対する思惟体系

自生的近代性

外来近代と区分される、内部思想体系から出発した近代性で、物質文明に対する批判と代案的未來展望を含む

東学思想/大巡思想

- 東学思想:崔濟愚が創始した19世紀新宗教思想、「気化(氣化)」概念中心
- 大巡思想:姜甌山が創始した新宗教思想、「調理(調理)」概念と神明思想中心

東学思想の気化(氣化)概念

東学は地を天地に属する一部ではなく超越天と対比される天地概念として気化(氣化)で表現する。

気化(氣化)の意味:宇宙を構成する深遠なエネルギーであり、万物の変化原理

「内有神靈外有気化内有神靈外有氣化」-内に神靈があり外に気化がある

東学思想における気化は:

- 人間と自然の外部的連結原理として作
- 用東西洋を連結する概念として活用
- 天人関係で気化として現れる物質的近代性の土台

大巡思想の調理(調理)概念

- ・ 大巡思想は「気化」に調理(調理、調和の理致)を加え、地が宇宙秩序の中心的調律者であることを強調

| “天用地用人用之調理(調理)統緒乾坤此之謂造化手段也”

- ・ 理(理)概念の強調 – 地は理致の中心となる存在
- ・ 理(理)範疇の特徴: 包容性・多様性・動態性

大巡思想の理(理)は陰陽五行の「土(土)」概念から出発 – 東学思想の「気化」中心思想と差別化される地点

勞而無功と天地成功の比較

● 勞而無功(勞而無功)

東学思想に現れる概念で、「努力したが成功しなかった」ことを意味

天外天が神明としてのみ出現した東学思想において自身の業績を説明した用語

成功の事例がなかったことを含意

● 天地成功(天地成功)

大巡思想に現れる概念で、地と天の完全な調和と成就を意味

天地が役割を分担して事を成す概念 地と天が陰陽合徳される地上天国の具現

自生的近代性における意味:

- 東学思想:不安な未来と限界を認める自己省察的近代性
- 大巡思想:「地徳(地徳)」を強調することで安心安身の生活が可能な完成的近代性
- 性二つの用語の対比を通じて韓国的近代性の発展方向を提示

自生的近代性の意味

韓国の新宗教思想が提示する近代性は西欧の外来近代と区別される自生的特性を示す。

東学思想	大巡思想
気化(氣化)中心の内在的・批判的思惟論	調理(調理)と神明、陰陽五行中心の統攝的・包容的發展
物質的近代文明に対する批判と代案的未來展望	天地成功(天地成功)を通じた陰陽合徳の地上天国の実現
短期的、外部的、社会的開闢志向	長期的、宗教的、神明による開闢志向

両思想はいずれも韓国的アイデンティティを基盤に、西欧中心の近代言説とは異なる方向を提示し、生命尊重と調和の価値を根幹とする新たなパラダイムを示す。

結論および示唆点

- ・ 東学と大巡の地観比較を通じた韓国的近代性の多元的意味の導出
- ・ 既存の西欧中心の近代言説を補完しうる新たなパラダイムの提案
- ・ アイデンティティ言説、生態および宗教哲学など多様な分野に示唆を提供

本研究は気化(氣化)と調理(調理)という概念を中心に、韓国新宗教思想が提示する自生的近代性の価値を再照明した。

これを通じて東アジア思想の現代的適用可能性とグローバル文明言説における独自の位置を確認できた。